

目次

KATOの動力装置を組み込んだ電機2輛
<EF61 12とEF62 3>……………三戸部 徹 14
 金属製キット利用で再現した事業用車輛
N：クモヤ495系交直流架線試験車……………阿部 貴憲 22

Nゲージのレイアウトセクション
「松永貨物駅」……………玉井 真一 26

～珊瑚製キットをすっきり組立～
C57 1次型……………吉井 建博 29
国鉄101系電車の10輛編成プラスα……………馬場 富士夫 34

第41回静岡ホビーショー……………TMS編集部 38

鐵を運んで一世紀 八幡製鐵所の口コたち……………荒川 彰 42

鐵道模型クラブ大集合2002 IN 静岡グランシップ……………TMS編集部 76

デジタル画像の旅
第2話“キドー”冬物語……………大谷 全彦 84
 我が愛蔵の機関車たち(その4)
鐵聯の双合機関車……………宮田 寛之 86

表紙写真



EF61 12とEF62 3
 製作：三戸部 徹

1500×300mmのレイアウトセクション
信濃鐵道(春)製作記—その3—……………矢田 誠人 93

日車PCC-NSLのバタフライ台車枠……………伊藤 剛 98
大井川鐵道312系……………木口 成男 100

フィクションストーリー
グルメクルージング「走る豪華レストラン」……………櫻井 儀雄 104
 ～2年間のアメリカ勤務を終えて～
Union Pacific on Jan. 28, 2000……………堀口 修一 112

製品の紹介……………52

■ 鐵道模型運轉会だより……………46
 ■ 給水塔……………115
 ■ メディア・チェック……………117
 ■ TMSインフォメーション……………118
 ■ 編集者の手帖……………129

★予約購読ご希望の方は郵便振替又は現金書留で12000円～20000円をご送金ください。増刊号不要の場合はその旨を明記願います。残・不足金は精算いたします。コンピューター処理のため、住所・氏名にはフリガナをかならずつけてください。

鐵道模型趣味 2002年7月号
 2002年7月1日発行
 定価950円(本体905円)千100円
 ©KIGEI PUBLISHING Co.,LTD. 2002

編集発行人 山崎喜陽/印刷 奥村印刷KK
 発行所 株式会社 機芸出版社
 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷1-15-11
 振替 00130-1-116287 ☎03(3482)6016
 FAX 03(3482)5160

自分にとって特別な日の列車を模型で…

Union Pacific on Jan. 28, 2000

～2年間のアメリカ勤務を終えて～

写真と文・堀口修一

私は2000年1月から約2年間、
私 二つのアメリカの会社と共同
開発を行ってきました。その間に
体験したアメリカの鉄道事情と集め
た鉄道模型について報告いたします。

最初の約1年はカリフォルニア州
サンタバーバラにある会社と手術用
3CCDカメラの開発を行ってきました。
サンタバーバラはロサンジェ
ルスのユニオンステーションからア
ムトラックに乗って約3時間、太平
洋沿いに北西に行ったところです。

その後の約1年半はニュージャ
ージー州モーレスタウンにある会社と
虹彩認証用USBカメラの開発を行
ってきました。モーレスタウンは
ニューヨークのペンステーションから
アムトラックに乗って南へ約1時
間半のフィラデルフィアで降り、そ
こからタクシーで約30分くらい東へ
行ったところです。

ロサンジェルのユニオンステ
ーションからサンタバーバラまでは、
AMD103・P42形機関車重連牽引の
「コースト・スターライト号」が1日
1往復、F-59PH-I形機関車牽引の
「サンディガン(サンディエゴ、ロサ
ンジェルス、サンタバーバラ間を走
るアムトラック)」が1日4往復運行
されています。元サザン・パシフィ
ック鉄道の線路を走っており、単線
で曲線が多く、貨物列車と同じ線路
なので車より遅く時間は正確ではあ
りません。サンタバーバラの駅は南
欧風でエキゾチックな、なかなか洒
落た駅です。漁港の近くのレスト
ランでは新鮮な魚介類を食べさせて
くれます。アメリカで生牡蠣が食べ
られるとは思いませんでした。

ニューヨークのペンステーション
からフィラデルフィアまではアセラ
エクスプレス、またはHHP-8形機関

車牽引の「メトロライナー」が1時
間1本、AEM-7形機関車牽引の「ノ
ースイースト・ダイレクト」が1時
間1～2本運行されています。元ペ
ンシルヴェニア鉄道の線路を走って
おり、複線で電化されているので渋
滞がなく、車より早く時間も正確で
す。フィラデルフィアの30番街通り
駅は大理石で出来た吹き抜けのある
建物で、ホームは地下にあり、ニュ
ーヨークのグランドステーションを
小振りにしたような、なかなか立派
な駅です。

*

ユニオン・パシフィック鉄道は、
1982年にミズーリ・パシフィック鉄
道とウェスタン・パシフィック鉄
道を合併し、1988年にミズーリ・カン
ザス・テキサス鉄道を合併しました。
さらに1995年にシカゴ&ノースウ
ェスタン鉄道を、1996年にサザン・パ
シフィック鉄道(コットン・ベルト
で知られているセントルイス・サウ
スウェスタン鉄道を子会社に置き、
デンバー&リオグランデ・ウエスタ
ン鉄道を引き継いでいた)をも合併
して、ユニオン・パシフィック鉄道
の機関車は6841輛(保存機を除いた
2000年1月現在の輛数。以下の車輛
数も同様)になり、第2の黄金時代

になったと思います。なお、第
1の黄金時代は、ビッグボーイとチ
ャレンジャーの巨大蒸気機関車が牽
引した貨物列車とE8/9形ディーゼ
ル機関車が牽引したドームカー付き
特急列車が同時に走っていた1955年
から61年までだと私は思います。ま
た、後に動態保存され、イベント列
車の先頭に立っているFEF(フォ
ー・エイト・フォー)形旅客用蒸気
機関車も仲間に入れたいと思います。

そんなわけで、ユニオン・パシ
フィック鉄道の塗装に変更されていな
い機関車が多数走っており、ユニオ
ン・パシフィック鉄道とシカゴ&ノ
ースウェスタン鉄道、サザン・パシ
フィック鉄道の機関車が混成重連や
混成三重連で牽引するダブル・スタ
ック・トレインやピギーバック・ト
レイン(アメリカでは両方ともイン
ターモーダル、つまり「2つ以上の
鉄道会社による共同一貫輸送」と呼
んでいる)を見ることがができるのは
鉄道ファンとしては幸せなことだ
と思います。例えば、GE製C44-9W(ダ
ッシュ・ナインと呼んでいる)形機
関車はシカゴ&ノースウェスタン鉄
道が99輛、サザン・パシフィック鉄
道が96輛も塗装およびナンバーを変
更しないまま走っています。また、

アムトラックの「サンセット・リミテッド号」。





洒落たたずまいのサンタ・バーバラ駅。



フィラデルフィア30番街通り駅。

GE製C44AC (UP以外の他社はAC4400と呼んでいる)形機関車では、サザン・パシフィック鉄道が273輛、シカゴ&ノースウェスタン鉄道が33輛も塗装およびナンバー変更をしないまま使われていますし、マニアックなところでは、デンバー&リオグランデ・ウェスタン鉄道のEMD製GP40形機関車が15輛、EMD製GP40-2形機関車が25輛も、同じように塗装およびナンバー変更されないまま走っています。

一方、サザン・パシフィック鉄道を走っていたアムトラックの看板列車「サンセット・リミテッド号」がユニオン・パシフィック鉄道を走るようになったので、今までアムトラックの看板列車が走っていなかった(カリフォルニア・ゼファー号は元デンバー&リオグランデ・ウェスタン鉄道と元バーリントン・ノーザン鉄道を走っている)ユニオン・パシフィック鉄道のファンとしては嬉しい限りです。その牽引機関車であるジェネシスことGE製AMD103は、アムトラック所属だけでもP40が#800~843、P42が#1~207と合計251輛あり、それ以外にもニューヨークのペンステーションで見かけたニュージャージー・トランジットの「ノースイースト・コリドール」用の700番代などがあり、大所帯になりました。

*

私の西暦2000年は、仕事で2つのアメリカの会社と共同研究を始めた年でした。その中で、初めてロサンジェルスユニオンステーションに行った“Jan. 28, 2000”は私にとっ

て特別の日です。そこで、2000年1月時点での旅客列車1本と貨物列車1本を選び、HOゲージの模型で再現することにしました。

*

旅客列車の代表は2000年1月28日(金曜日)の朝にロスへ到着した「サンセット・リミテッド号」(週3往復の運行で、大西洋岸のオーランドから太平洋岸のロサンジェルスまで本当に大陸を横断する唯一の列車です)にしました。機関車はAMD103・P40形で、フェーズIV塗装の800番代の重連です。

模型は、アサーン社製AMD103・P40形機関車の、フェーズIV塗装のインターシティ#1と#2を購入しました。アサーン社の人の話では、アムトラック#1と#2はフェーズIII塗装で、インターシティ#1と#2はフェーズIV塗装とのこと。

「サンセット・リミテッド号」はスーパーライナーIの編成ですが、貨物車の次に来るトランジション・スリーパーだけはスーパーライナー

IIです。トランジション・スリーパーの片側の貫通幌は1階部分に付いており、必ずこちら側が荷物車側に連結されます。スーパーライナーIにはトランジション・スリーパーがありませんので、スーパーライナーIの編成でも荷物車の次だけスーパーライナーIIになっています。なお、スーパーライナーIとIIの違いでは台車の相違が一番大きく、その他はあまり変わりません。

ウォルサーズ社製のスーパーライナー客車は、IもIIもフェーズIV塗装を購入しました。スーパーライナーIのサイトシーイングは半額にディスカウントしていただきましたので買い得でした。貨物車は、実物では1200シリーズのフェーズIII塗装でしたが、ウォルサーズ社から1700シリーズのフェーズIV塗装が発売されたので、それを購入しました。1700シリーズのフェーズIV塗装の貨物車は、実物では「コースト・スターライト号」に使用されていますが、「コースト・スターライト号」のAMD103・P42形

出発を待つHHP-8形機関車牽引の「メトロライナー」。



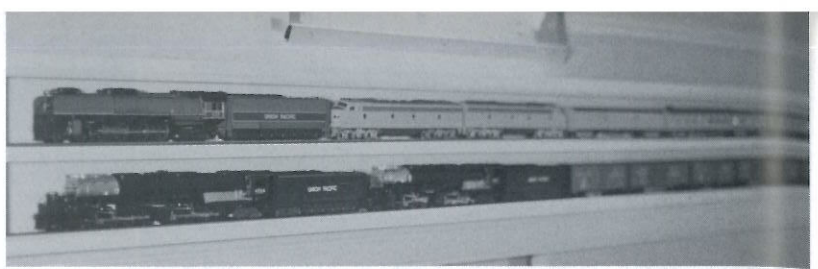
機関車はフェーズIII塗装なので一貫性がありません。模型では、全てフェーズIV塗装で統一しました。なお、スーパーライナー客車の後にウォルサーズ社製の60フィートMHC貨車のフェーズIV塗装を2,3輛連結すると本物らしく見えます。

*

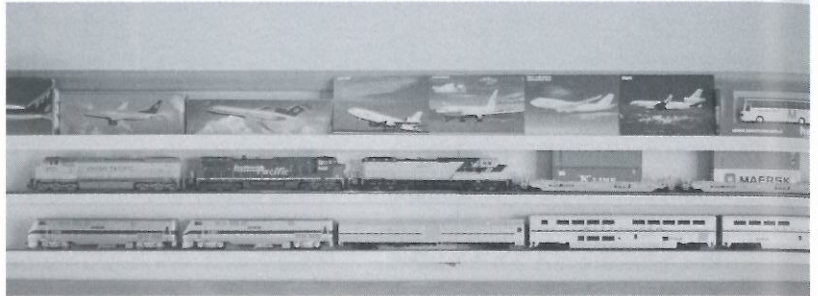
貨物列車の代表は2000年1月時点でネブラスカ州のトリプル・トラック・メインライン（南側線は東行き、北側線は西行き、中央線は東行きと西行きをスイッチさせる）を走るC44-9W形機関車で、ユニオン・パシフィック鉄道塗装とサザン・パシフィック鉄道塗装とシカゴ&ノースウェスタン鉄道塗装の混成三重連が牽引する、ダブル・スタック・トレインとピギーバック・トレインで構成したインターモーダルにしました。

アサーン社製C44-9W形機関車は、混成三重連となる3鉄道塗装のものを購入しましたが、シカゴ&ノースウェスタン鉄道塗装の機関車は2割ディスカウントして買得でした。同じC44-9W機関車でもユニオン・パシフィック鉄道塗装とシカゴ&ノースウェスタン鉄道塗装のものはナンバーボードがボンネットの上についており、サザン・パシフィック鉄道塗装のものは窓の上に付いています。

実物のダブル・スタック・トレイン
TONY'S TRRAINTOWNのおやじさん。



以前に集めたユニオン・パシフィック鉄道のHOゲージ車輛。
Jan. 28, 2000記念、混成三重連ディーゼル牽引の貨物列車と「サンセット・リミテッド号」。



ンは、ガンダーソン社製Maxi-III・5ユニット・ウェルカーのTTX塗装と同社製GWF10ハスキー・スタックカーのTTX塗装が一般的です。両方とも48フィートの海上コンテナまで積載出来ますが、日本に来ている海上コンテナは40フィートと20フィートがほとんどです。私の会社でよく見かけるキャリアは、Kライン、マークス、ニューヨーク・ロジスティック・メガキャリア、トリトン、エクストラ・キャリア、エバーグリーン、ヒュンダイなどです。

模型は、アサーン社製のGWF10ハスキー・スタックカーのTTX塗装、インバック・5ユニット・ピギーバックのSSW（コットンベルト）塗装と85フィート多目的フラットカーのPFE塗装を購入しました。スタックカーには40フィートコンテナを、ピギーバックには45フィートトレーラーと48フィートトレーラーを、フラットカーには40フィートトレーラーと40フィートコンテナを載せました。

*

最後に、私がニュージャージー州で仕事をしていた際に立ち寄った鉄道模型店を2軒紹介します。

1軒目はニュージャージー州メイプルシェイド（ニューヨークのペンステーションからアムトラックに乗り、フィラデルフィアの30番街通り駅からタクシーで20分くらいのとこ

ろ）にあるJ&B TRAINS Co.（※1）です。ここは共同開発していた会社の近くで、夕飯を食べたステーキハウスの隣でした。この店はOゲージ専門店ですがライオネル製品などがたくさん置いてあり、アメリカではOゲージをやっている人がまだ数多くいることを実感しました。

2軒目はニュージャージー州セダグロブ（日本人がたくさん住んでいるフォートリーからタクシーで20分位のところ）にあるTONY'S TRRAINTOWN（※2）です。ここはO, HO, N, Zゲージも扱っている店で、日本から来たと言ったら、店の名前と住所や電話番号が入ったオリジナルの40フィート・ボックスカー（蒸機時代）をただでくれました。HOゲージの貨車をサービスするなんて、日本では考えられません。この店のおやじさんの写真を撮ってきました。ニューヨークからは、ワシントン・ブリッジを渡ってニュージャージー州へ入り、インターステイツ80号線を西へ進んで53番のインターチェンジで降りて、州道23号線を進みます。アメリカでは偶数番号の道路は東西、奇数番号の道路は南北に走っています。住所はポンプトン・アベニュー575番地ですが、アメリカでは奇数番地と偶数番地で道の左右に分かれていますので、左の番地だけを見ながら走ればすぐに解ります。（終）

※1 Tel.+1-856-414-0092

※2 Tel.+1-973-857-2337